

## ヒンターエーダー＝エムデ先生定年に寄せて

下 寄 正 利

私がヒンターエーダー＝エムデ先生に初めてお会いしたのは、私が山口大学に赴任した年だから、かれこれ33年ほど前になる。それが、私の歓迎会の席だったか、別の機会だったか、遠い昔のことなので記憶が定かでない。先生が山口大学に赴任されたのが私の2年前なので、その当時はお互いに山口では新参者だった。それから月日は流れ、今ではお互いに人生の半分以上を山口で過ごしていることになる。

初めの内、ヒンターエーダー＝エムデ先生が教養部所属、私が人文学部所属で、ほとんど顔を合わせる事が無かった。共通教育のドイツ語の授業計画について話し合う時には全ドイツ語教員が集まって会議を行っていたが、先生とお会いするのはその機会だけだったように思う。先生と頻りに顔を合わせるようになったのは、教養部が解体され、先生が人文学部に分属になり、同じコースの教員となってからである。それから数えても、もう四半世紀である。

豊富でかつ深い学識に加えそのお人柄で、先生は学生の人気も高かった。授業では、ドイツ語やドイツ文学はもちろんのこと、更にドイツ文化全般や現代のドイツなどについて幅広く教えていらっしやう。指導教員を担当した学生も多数に上る。

先生のご専門は比較文学であり、文学とドイツ（語）文学の比較研究なさっているが、個別の作家では、夏目漱石と Robert Walser を研究の中心とされている。『山口大学独仏文学』にも論文を数本投稿なさっている。

授業と研究活動以外にも、先生は学内のさまざまな業務に携わってこられたが、その中でもっとも大きな業績といたらやはり国際交流関係の仕事であろう。先生は留学生センター長という重責を担われていたこともあった。また、山口大学はドイツの Erlangen-Nürnberg 大学と学術交流協定を結んでいるが、この協定の締結の際、山口大学側の中心となったのがヒンターエーダー＝エムデ先生と本田義昭先生であった。この協定により、Erlangen-Nürnberg 大学の教授をお呼びし、講演をしていただいたこともあった。Erlangen-Nürnberg 大学の学生も山口大学に留学に来た。しかし何より、これまで多くの山口大生が Erlangen-Nürnberg 大学へ留学し、語学力を伸ばしただけでなく、人間的に成長して戻ってきたことはすばらしい成果であった。

学外でも、山口日独協会の会員として長年活動を続けられており、山口とドイツの文化交流にご尽力なさってきている。

個人的なことでは、私が国際誌に論文を投稿する際、ドイツ語のチェックで大変お世話になった。先生のご協力なしには、私の論文が掲載されることは無

かったであろう。

また、数年前、ご自宅に招かれ、同僚数人に学生数人、あと学外のお知り合いの方数人でいっしょにソーセージ作りをしたことがあった。日本在住のドイツ人で、自宅でソーセージを作る人など他にいないのではないだろうか。貴重な体験をさせていただいた。楽しい一日であった。

山口大学に勤続35年、ヒンターエーダー＝エムデ先生には本当にお疲れさまでしたと申し上げたい。大学の雑事から解放され、これからは自由な毎日を存分に享受していただけたらと思う。